

ありがとう 彦根の侍ジャパン!

夏に大いに期待



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金龜町4番7号

野スタ No.6

当日内野スタ
ドで観戦された東近江市の方は「あんな(アルプス)スタンドは初めて見ました」とやや興奮気味。そのアルプススタンドで一生懸命メガホン

テレビで試合を観戦した東高OBの方は「残念ながら負けたけど、いい試合でした。堂々と戦っている姿がとても格好良かった。夢と希望をもらえました。自分自身もまた頑張ろうと思えました。ありがとう、彦根の侍ジャパン!」とここにこ。同じくテレビの前で応援してくれた米原市の小・中学生の兄弟は「テレビの前で一生懸命大声で応援しました。点を取られても取り返して、いい試合でした。見ていて元気が出ました」、「相手も強かったけど、9回まではヒット数も上回っていてすごいと思った。夏も行けると思つたので頑張つてほしい」。

73



応援に来てくれた野球少年たち

ンをたたいてくれた小学生は「はじめ野球はあまり興味がなかったけれど面白い試合だった」と話してくれた。

江竜先生の同窓生で、当日も甲子園で応援してくださいました方は「一生に一度のチャンスだと応援に駆けつけました。試合ぶりやエースの出来栄えを見てしまうと、夏に大いに期待してしまいますね。」

西野耕司先生は「僕は本校にきて18年になるが、東高全体が一体となってこんな感じで応援したのはこれが初めて。やっと甲子園に連れて来てもらえてうれしい。帰ってきた時の今井監督はとりあえず一段落したという感じだった」と話してくださいました。野球部員5人を擁する2年6組の担任、西村千春先生は「グラウンドが思ったより近くにあり試合の迫力を間近に感じ、感動しました。球場の素晴らしさを実感し、なぜここが高校球児のあこがれの場なのか少しわかったような気がします。選手たちが帰ってきた時は普段通りでした。負けて自信を失ってしまったわけではないというのが分かり、安心しました。いろいろ話してくれて楽しかったです」と安堵の表情。山根孝子先生は学校に帰っ

てきた選手たちを見て「体も心もひとまわり大きくなって帰ってきた感じがしたと微笑まれました。」

大会中のバスをずっと運転してくださいださっていた彦根観光の小林義裕さんは「遠征や練習試合で5、6年前からお付き合いさせてもらっています。18日から甲子園に出発しましたがバスの中で監督や選手は緊張しているようで表情も硬かったです。しかし試合の前にはほぐれてきました。帰りのバスでは負けて悔しかったと思いますが、表情を見てみると日ごろやってきたことをだして完全燃焼したという印象を受けました。一緒に甲子園に行きたいと思ってきたので、行けてうれしいです。夏も頑張ってください。」

習志野戦では適時打も放つた、野坂悠太君(2、4)のお兄さんは「(試合中の選手たちは緊張していた様子でこちらも緊張していました。試合は負けたけど充実感があったように思います。笑顔もあり納得していた様子でした。ヒットも打つたのでよくやってくれたんじゃないかと思つています」とはにかみながら話してくださいました。